



# 2015年度 環境活動レポート

(2015年4月～2016年3月)

平成28年8月31日

マツダオートザム札幌共立  
株式会社 共立自動車

# 環境方針

## 《基本理念》

株式会社 共立自動車は、自動車販売・自動車整備・自動車保険のすべての事業活動において、環境を考慮した営業活動や、リサイクル部品を利用するなど、環境負荷の低減に努め、自然との調和を図りながら、地球環境の保全に取り組みます。

## 《行動指針》

- 1 環境に関する法規制を遵守します。
- 2 限りある資源を有効に活用するため、分別廃棄とリサイクルパーツの活用に努めます。
- 3 節水、節電、化石燃料の節約に努め、二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
- 4 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
- 5 環境活動レポートを取りまとめ公表し、全社員総動で環境に取り組みます。

制定日 : 2010年4月1日

改定日 : 2014年4月1日

マツダオートザム札幌共立  
株式会社 共立自動車  
代表取締役社長

後藤 裕章

---

---

# 事業活動の概要

## 1. 事業社名及び代表者

マツダオートザム札幌共立  
株式会社 共立自動車  
代表取締役 後藤 裕章

## 2. 所在地

北海道札幌市白石区米里一条2丁目1番7号  
電話 011-874-6111

## 3. 事業内容

マツダブランドの乗用車・商用車・軽自動車の新車販売  
中古自動車の販売  
部品・用品の販売  
自動車整備業  
損害保険代理店業

## 4. 事業の規模

従業員	13名
年間売上高	319,000千円
年間車両販売台数	215台
年間整備在庫台数	3,295台

※ 平成27年4月～平成28年3月期

## 5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者  
EA21環境推進事務局

後藤 裕志  
長谷川 恵介

# 登録認証の範囲

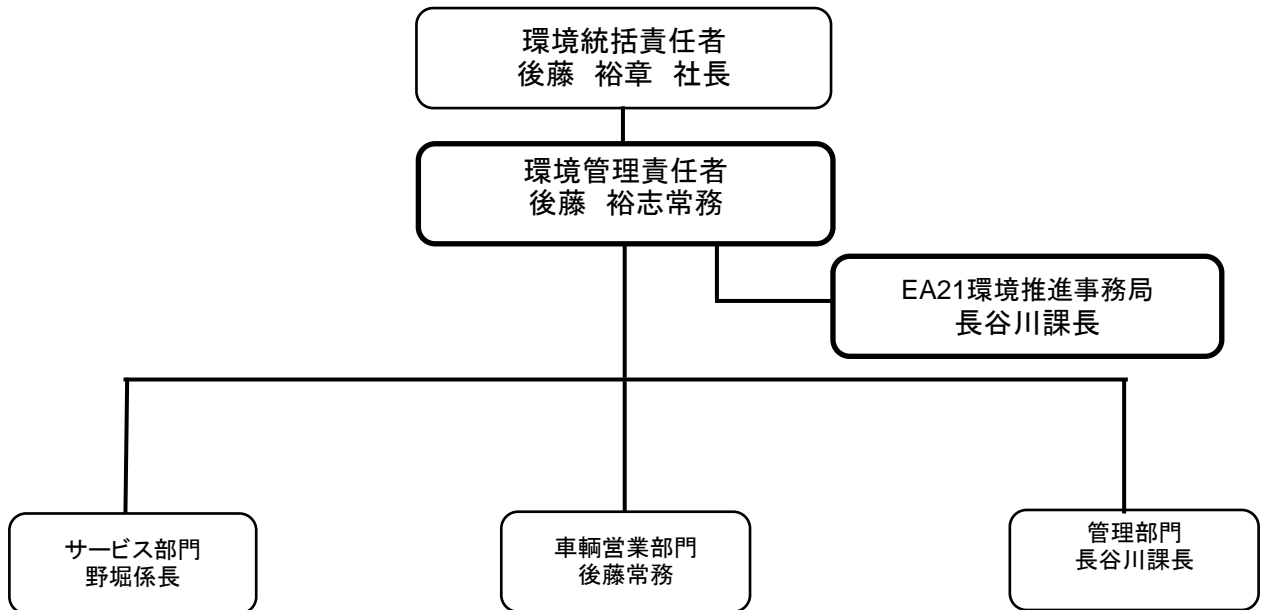
## 1. 認証 登録事業者

マツダオートザム札幌共立  
株式会社 共立自動車

## 2. 認証 登録の活動範囲

自動車の販売(新車・中古車)  
自動車部品・用品販売  
自動車の修理及び整備  
損害保険代理店業

# エコアクション21 実施体制



## <役割>

環境統括責任者 ＜代表者・社長＞	環境マネジメントシステム(以下EMS)に関する統括責任者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意</li> <li>・環境管理責任者の任命</li> <li>・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境目標の設定を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>・環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	実務上の責任者として、全社の環境取り組みを推進する ※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲 <ul style="list-style-type: none"> <li>・EMSの構築、実施、管理</li> <li>・環境活動計画書、環境関連法令取りまとめ、リスト等の承認する</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境活動レポートの確認</li> </ul>
EA21推進事務局 環境推進担当者	環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として全社の環境取組を推進する <ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗の環境取り組みの指導・支援</li> <li>・環境データの集計・取りまとめ</li> </ul>
実施責任者	部門責任者として部門に関わる環境目的・目標達成に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門メンバーに対する環境取組の指導・支援</li> </ul>

平成26年4月1日改正

# 環境目標

## 1 環境負荷の現状

評価基準	◎	目標値以上に削減
	○	目標値以下の削減
	△	目標値より5%以下の増加
	×	目標値より5%以上の増加

項目	単位	2015年 (目標値)	2015 (実績)	達成率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-co2	97,206	96,206	1.03%	◎	
電力使用量	MJ	768,532	742,824	3.35%	◎	
化石燃料	ガソリン使用量	L	5,045	4,260	15.56%	◎
	軽油使用量	L	3,055	3,956	-29.49%	×
	LPガス	m <sup>3</sup>	679	684	-0.74%	△
	重油	L	7,227	7,594	-5.08%	×
	灯油	L	7,812	8,115	-3.88%	△
一般廃棄物	kg	1,940	1,960	-1.03%	△	
産業廃棄物	kg	58,621	59,213	-1.01%	△	
水使用量	m <sup>3</sup>	737	708	3.93%	◎	
化学物質の使用量	kg	591	504	-		
グリーン購入	実施率	維持管理	100%実施	-		
エコカー(新車)販売車輛	エコカー/新車	90%	92%	-		

参照 排出係数は平成27年度 北海道電力株式会社の 0.688kg-CO<sub>2</sub>/KWhを使用した。

## 2 環境目標

項目	単位	2014年	目 標			
		(基準年度)	2015年度	2017年度	2018年度	
二酸化炭素排出量	kg-co2	98,188	97,206	95,242	94,260	
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
電力使用量	MJ	776,295	768,532	753,006	745,243	
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
化石燃料	ガソリン使用量	L	5,096	5,045	4,943	4,892
	軽油使用量	L	3,086	3,055	2,993	2,963
	LPガス	m <sup>3</sup>	686	679	665	659
	重油	L	7,300	7,227	7,081	7,008
	灯油	L	7,891	7,812	7,654	7,575
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
一般廃棄物(可燃物)	kg	1,960	1,940	1,901	1,882	
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
産業廃棄物	kg	59,213	58,621	57,437	56,844	
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
水使用量	m <sup>3</sup>	739	732	717	709	
(削減率)			△1%	△3%	△4%	
エコカー(新車)販売車輛	台	93%	90%	90%	90%	
整備点検入庫率	整備台数/整備予定台数	90%	90%	90%	90%	

化学物質は塗装に使用する塗料などであるが、使用量削減が難しいため管理を実施する

グリーン購入はすでに100%実施しているため、維持継続とする

2015年度追加目標

- 社員の更なる意識改革によるエコ21の活動の強化と実践の為の定例会議の開催
- リサイクル可能な産業廃棄物を適正に区分し廃棄物を削減する。
- 整備点検入庫率の向上及び顧客車輛の管理整備によるエコの推進

# 環境活動計画

当社の主要な環境活動計画の内容は以下の通りです。

## ■二酸化炭素排出量の削減

### ①電力使用量の削減

- ・電気メーターの確認・記録
- ・メジャーサインの点灯・消灯設定確認
- ・不要な照明の消灯確認
- ・ショールーム/事務所のエアコンの温度設定確認
- ・エアコンフィルターの定期的清掃
- ・事務所棟待合室の消灯
- ・ショールーム/休憩時等の工場の消灯
- ・暖房の温度設定確認
- ・電気器具の定期的な清掃

### ②化石燃料使用量の削減

- ・エコドライブの啓発(アイドリングストップ)
- ・タイヤの空気圧・不要な荷物の整理
- ・代車の満タン貸し出し・満タン返し
- ・会社社屋改修の壁等の断熱対策による暖房用燃料の削減

## ■廃棄物排出量の削減

### ①紙使用量の削減

- ・ペーパーレスの推進
- ・両面コピー・裏面使用の徹底

### ②一般ゴミの削減

- ・ゴミだしの記録

### ③産業廃棄物の適正処理

- ・契約書・マニフェスト伝票の確認

## ■排水量削減(水使用量の削減)

### ①水道メーターの確認・記録

- ・漏水等の確認を定期的に行う

### ②節水活動の推進

- ・節水の掲示を各蛇口付近に貼付(顧客用トイレを含む)
- ・節水用洗車ガンのメンテナンス

## ■化学物質使用量の把握

### ①塗料及びうすめ液の購入量の把握

### ②トルエン、キシレンの使用量算出、廃棄量の把握

## ■グリーン購入

### ①アスクルからの購入の継続

# 環境活動の取組結果の評価

## 1. 環境目標の達成状況

(2015年4月～2016年3月運用期間の実績)

評価基準

◎: 目標値5%以上UP

○: 目標値UP

△: 目標値以下

×: 目標値5%以下

項目	単位	目標(年間)	実績	達成率	評価	
二酸化炭素排出量	kg-co2	97,206	96,206	1.03%	○	
電力使用量	MJ	768,532	742,824	3.35%	○	
化石燃料	ガソリン使用量	L	5,045	4,260	15.56%	◎
	軽油使用量	L	3,055	3,956	-29.49%	×
	LPガス	m <sup>3</sup>	679	684	-0.74%	△
	重油	L	7,227	7,594	-5.08%	×
	灯油	L	7,812	8,115	-3.88%	△
一般廃棄物排出量	kg	1,940	1,960	-1.03%	△	
産業廃棄物排出量	kg	58,621	59,213	-1.01%	△	
水使用量	m <sup>3</sup>	737	708	3.93%	○	
化学物質の使用量	kg	591	504	維持管理	○	
グリーン購入	実施率	100%	100%			
エコカー(新車)販売車両	エコカー/新車	90%	91%			

排出係数は平成27年度 北海道電力株式会社の 0.688kg-CO<sub>2</sub>/KWhを使用した。

## 2. 環境活動の取組結果の評価

■二酸化炭素排出量の削減	
○	<p>電力使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不要な場所、休憩時の消灯などの意識改善は進んだと思われる。</li> <li>・ 電力自由化により会社を転換したが、使用量の削減にはいたらなかったがコストは下がった。</li> <li>・ 毎月の定例会議において、電力等の使用量の確認を行った為、日々の節電に繋がった。</li> </ul>
△	<p>化石燃料の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス代車の満タン貸し/満タン返しの徹底により、ガソリン使用量が減少した。</li> <li>・ 冬季間の暖房用の重油及び灯油の使用量が増えた。</li> <li>・ 社用車及び試乗車のディーゼル化が進み、軽油が増大しガソリンの消費量が減った。</li> <li>・ 本年度は、冬季間の排雪作業が少なくトラックの軽油使用量が減った。</li> </ul>
○	<p>エコカー販売によるエンドユーザーの化石燃料の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エコカー対策車が75台で目標の90%はクリアした。</li> <li>・ クリーンディーゼル車及びのエコ軽車両の発表によりエコカーの新車販売が進んだ。</li> <li>・ 整備点検在庫率の向上及び顧客車両の管理整備によるエコの推進</li> </ul>
■廃棄物排出量の削減	
○	<p>産業廃棄物排出量の削減とリサイクルパーツの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高年式車の修理が増えリサイクル金属パーツの交換により交換部品の排出量が増えた。</li> <li>・ 一般廃棄物の目標値に届かず更なる意識改革が必要でペーパーレス等の推進をする</li> <li>・ 油水分離層の汚泥処理費用等で排出量が増えた。</li> </ul>
■化学物質使用量の把握	
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塗料及びうすめ液の購入量の把握する。</li> <li>・ トルエン、キシレンの使用量算出し、廃棄量の把握する。</li> </ul>
■グリーン購入	
○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アスクルからの購入の継続する。</li> </ul>



# 環境活動の次年度の取組

2015年環境目標及び環境活動計画を基に2016年度は以下を目標として取り組む。

## 1. 2016年 環境目標 (2016年4月～2017年3月運用期間)

項目	単位	2014年(基準年度)	2016年(目標)		
二酸化炭素排出量	kg-co2	98,188	96,224	-2%	
電力使用量	MJ	776,295	760,769	-2%	
化石燃料	ガソリン使用量	L	5,096	4,994	-2%
	軽油使用量	L	3,086	3,024	-2%
	LPガス	m <sup>3</sup>	686	672	-2%
	重油	L	7,300	7,154	-2%
	灯油	L	7,891	7,733	-2%
一般廃棄物排出量	kg	1,960	1,921	-2%	
産業廃棄物排出量	kg	59,213	58,029	-2%	
水使用量	m <sup>3</sup>	739	724	-2%	
エコカー(新車)販売車輛	エコカー/新車	93%	90%		
整備点検入庫率	入庫/入庫予定	-	90%		

排出係数は平成27年度 北海道電力株式会社の 0.688kg-CO<sub>2</sub>/KWhを使用した。

## 2. 環境活動の取組目標

<b>■二酸化炭素排出量の削減</b>	
電力使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要な場所、休憩時の消灯の徹底及び夏季の冷房及び暖房温度設定の確認</li> <li>日々の営業活動効率化により電力使用量を削減。</li> <li>メジャーサインの点灯及び消灯の設定確認。</li> <li>古い蛍光灯器具等の整備メンテナンス</li> </ul>
化石燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス代車の満タン貸し/満タン返しの徹底。</li> <li>事業用車輛の運用を日々効率化を図る。</li> <li>冷房及び暖房機器のメンテナンスによる効率化を図る。</li> <li>LPガスの使用量は湯沸し等意識の改善を継続して削減を図る。</li> <li>冬季間の暖房用の重油及び灯油の削減。</li> </ul>
エコカー販売によるエンドユーザーの化石燃料の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>新車販売目標80台の90%をエコカー対策車及びi-Stop対応車輛に営業努力をする。</li> <li>整備点検入庫率の100%向上及び顧客車輛の管理整備によるエコの推進</li> </ul>
<b>■廃棄物排出量の削減</b>	
産業廃棄物排出量の削減とリサイクルパーツの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度の実績値より減少するように修理可能な部品は修理し交換部品のリサイクル化を推進し金属パーツの削減努力をする。</li> <li>一般廃棄物の排出一層の削減努力をする。</li> </ul>
<b>■排水量削減(水使用量の削減)</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の節水を掲示喚起して削減に努力する。</li> <li>整備入庫台数の増加が想定されるが洗車等の効率化を図る。</li> <li>止水栓からの漏水等の注意確認をする。</li> </ul>
<b>■化学物質使用量の把握</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>塗料及びうすめ液の購入量の把握する。</li> <li>トルエン、キシレンの使用量算出し、廃棄量の把握する。</li> </ul>
<b>■グリーン購入</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>アスクルからの購入の継続する。</li> </ul>

詳細に関しては、2016年環境活動計画書によりチェックする。

## 代表者による全体の評価と見直しの結果

見直し日時	2016年8月31日 20:00～21:00	場所	本社会議室
参加者	後藤社長 後藤課長EA21責任者 EA21推進事務局 長谷川恵介	サービス部門	野堀裕司

- ・ EMSの有効性及び取り組みの適切性はあった。
- ・ 環境方針の変更はなし
- ・ 環境目標は、電力の排出係数変更を伴う見直しを行いCO2を含む適正なる目標値が策定できた。
- ・ 環境活動計画の変更は現在のところなし。
- ・ 環境経営システムの変更はなし。
- ・ 環境活動レポートの中間報告書類の作成が出来、期中における推移を把握することが出来た。次年度も継続して管理する事。
- ・ 毎月の定例会議時に電力等の数値の発表があり、月々の進捗と見通しをつかむことが出来たが最終的に化石燃料の削減が目標値に至らなかった。翌年度は十分各自配慮の必要有。
- ・ 産業廃棄物の削減に伴い、お客様にリサイクルパーツの使用の理解を得て社会に貢献する。また、リサイクルパーツ使用によるCO2の削減値を明確化し、資料として明示する事。
- ・ 廃油及びバッテリーの全量売却処理等により、産廃物の削減に効果があった。
- ・ 未達成の目標について日々の社員の意識の改革に努め目標達成に取り組む事。

# 環境関連法規への違反・訴訟の有無

## 1.環境関連法規

環境関連法令	法令要求事項	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の適正処理	○
騒音・振動規制法	特定施設の届出	○
消防法	少量危険物(貯蔵所・取扱所)の届出	○
家電リサイクル法	対象家電排出時の適正処理	○

## 2.違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反や訴訟は発生しておりません。

また、環境当局からの違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。